

平成25年度（2013年度）

共通教科「情報」

教科書の比較

（教科書会社からの回答）

神奈川県高等学校教科研究会情報部会

教科書検討特別委員会

社会と情報

社名	書名	教科書の記号	発行者の番号	教科書のページ数	指導要領各項目ごとのページ数(指導要領のアイウレベルと巻末資料等)												
					(1)情報の活用と表現			(2)情報通信ネットワークとコミュニケーション			(3)情報社会の課題と情報モラル			(4)望ましい情報社会の構築			巻末
					ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	
東京書籍株式会社	社会と情報	社情301	2東書	170	16	30	14	10	8	8	38	6	8	16	6	10	26
実教出版株式会社	最新社会と情報	社情302	7実教	190	20	23	37	12	14	16	19	8	22	8	16	28	
実教出版株式会社	高校社会と情報	社情303	7実教	190	8	37	27	10	12	6	6	12	18	4	4	28	
開隆堂出版株式会社	社会と情報	社情304	9開隆堂	184	8	12	8	8	14	8	10	12	20	12	6	12	38
数研出版株式会社	高等学校 社会と情報	社情305	104数研	184	14	28	14	12	14	6	8	12	6	10	4	4	30
日本文教出版株式会社	社会と情報	社情306	116日文	194	8	13	9	10	12	14	11	5	16	10	4	36	24
日本文教出版株式会社	見てわかる社会と情報	社情307	116日文	174	2	26	12	2	8	4	18	8	13	4	4	16	22
第一学習社	高等学校 社会と情報	社情308	183第一	200	6	18	16	8	18	16	8	12	22	8	4	20	21

社名	書名	実習と座学の割合% (想定授業時間数で)		指導要領各項目について実習と座学の割合%																							
				(1)情報の活用と表現						(2)情報通信ネットワークとコミュニケーション						(3)情報社会の課題と情報モラル						(4)望ましい情報社会の構築					
				ア		イ		ウ		ア		イ		ウ		ア		イ		ウ		ア		イ		ウ	
				実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学
東京書籍株式会社	社会と情報	50%	50%	50%	50%	73%	27%	57%	43%	20%	80%	25%	75%	25%	75%	63%	37%	33%	67%	50%	50%	50%	50%	25%	75%	20%	80%
実教出版株式会社	最新社会と情報	40%	60%																								
実教出版株式会社	高校社会と情報	60%	40%																								
開隆堂出版株式会社	社会と情報	46%	54%	13%	88%	17%	83%	80%	20%	13%	88%	36%	64%	75%	25%	33%	67%	40%	60%	40%	60%	20%	80%	67%	33%	78%	22%
数研出版株式会社	高等学校 社会と情報	25%	75%	25%	75%	20%	80%	40%	60%	10%	90%	15%	85%	15%	85%	40%	60%	15%	85%	25%	75%	0%	###	0%	###	15%	85%
日本文教出版株式会社	社会と情報	45%	55%	20%	80%	30%	70%	65%	35%	30%	70%	25%	75%	65%	35%	35%	65%	0%	###	35%	65%	30%	70%	25%	75%	75%	25%
日本文教出版株式会社	見てわかる社会と情報	60%	40%	20%	80%	80%	20%	80%	20%	40%	60%	20%	80%	50%	50%	10%	90%	20%	80%	45%	55%	50%	50%	70%	30%	70%	30%
第一学習社	高等学校 社会と情報	25 ~ 35	65 ~ 75	10%	90%	30%	70%	35%	65%	10%	90%	40%	60%	50%	50%	10%	90%	25%	75%	35%	65%	10%	90%	10%	90%	70%	30%

社名	書名	本文中の写真点数、イラスト点数、図の数、表の数、グラフの数					本文中の注釈数	索引項目数	解説用語数	他教科との連携について	編集にあたって工夫した点、特徴等
		写真	イラスト	図	表	グラフ					
東京書籍株式会社	社会と情報	149	288	203	30	43	397	342	216	数学Ⅰ(4)ア 箱ひげ図(150ページ) 現代社会(2)エ 内容の取扱い「信頼できる情報とは」(66ページ) 国語総合 A(1) プレゼンテーション(80ページ) 家庭基礎 (2)エ 電子商取引(118ページ)、トレーサビリティ(121ページ)	授業に合わせて教科書の内容を選択できるよう、 実習編と理論編の2部構成とし、実習は1時間で完結する扱いやすいもので構成した。基本的内容や重要事項は、繰り返し扱うことを想定して巻末の資料編にまとめた。
実教出版株式会社	最新社会と情報	51	277	—	25	0	176	265	349	数学科, 公民科, 理科, 国語科	例題を中心に学習内容を説明するようにして、座学・実習のどちらからでも学習目標に到達できるようにしました。スキルにばらつきが予想される表計算ソフトについては、取り扱いを丁寧にしました。リファレンス的に使える資料を巻末に掲載しました。
実教出版株式会社	高校社会と情報	63	249	—	45	0	309	282	485	数学科, 公民科, 理科, 国語科	学習指導要領の内容を整理分類し直して、全部で50のテーマに再構築し、それらを見開きで展開しました。内容は、普遍的で正確な表記を心がけ、比較的レベルの高い内容にも一部触れるようにしました。リファレンス的に使える資料を巻末に掲載しました。
開隆堂出版株式会社	社会と情報	96	119	113	21	26	95 211	212	145	1章では、情報化が進展することによるわたしたちの生活の変化を理解する過程で、公民(現代社会)と連携ができます。 2章3節では、情報を適切に表現伝達をする観点において、国語(国語表現)と連携ができます。 4章では、全般にわたって公民(倫理)と連携を図ることができます。また、情報社会の進展に伴う生活の変化は公民(現代社会)と連携ができます。 5章3節では、収集したデータを分析する過程において数学と連携ができます。	教科書だけで十分な情報モラルの学習ができるように46ページを割り当て、詳しく、丁寧に解説しました。また、情報モラルに関する身近なトラブルをイラスト掲載し、分かりやすく、楽しく学ぶことができます。
数研出版株式会社	高等学校 社会と情報	258	172	119	43	9	367	388	65	数学科との関連として、2進数と10進数の変換(2編3章A節)を取り上げた。	できるだけ身近な最新の事例を取り上げ、興味を持続して学習できるようにした。また、適所で実習を取り入れ、知識や技術の整理・確認をしながら、実践力や応用力を養えるようにした。
日本文教出版株式会社	社会と情報	40	182	168	35	8	377	388	245	国語科との連携でメディアリテラシー(2章1節)を扱ったり、数学科との連携でアンケート調査(2章末)に取り組んだり、公民科との連携で3章各節末の「視点・論点」での討議を活かすことができます。各種プレゼンテーションスキル、レポート作成のテクニックなどは、他教科、総合的な学習の時間などで活用できる素地と考えることができます。	基礎基本を確実に取り扱うとともに、積極的に新しい技術や考え方、ソーシャルメディア等のインターネット上のサービスも取り上げ、資料性を高めました。「習得・活用・探究」の過程を意識した編成を採っています。
日本文教出版株式会社	見てわかる社会と情報	18	312	202	3	2	88	290	193	第3章3節をはじめ、情報社会における権利や法律、個人の責任などは、公民科との連携を検討することができます。第2章1節における表計算ソフトウェアを用いたデータの分析や、第4章3節で扱う2進法、16進法の学習は、数学科との連携でより深い理解を得ることができます。第1章、第2章は中学校との接続性にも配慮し、この章で学習する事項はあらゆる教科、総合的な学習の時間、その他学校生活全般にわたって活かすことができます。	中学校との接続や、現在の高等学校での授業展開を参考にし、情報モラルや情報活用の基礎を前半に置きました。ページの大半をイラストや図とし、本文を簡潔にすることで、視覚的に理解できる教科書としました。
第一学習社	高等学校 社会と情報	142	163	99	22	22	111	470		「数学Ⅰ」:各種グラフの特徴、尺度、基本的な統計量(四分位数、標準偏差など)を扱った。 「情報の科学」:学習者の興味や関心に応じて「情報の科学」の内容を取り入れられるよう、「発展」の項目を設けた。	「情報モラルの育成を重視」「自ら読み進めて理解できるよう記述を丁寧にこなす」「興味や関心を高められるように充実した内容と親しみやすい紙面との両立」を強く意識した。

社名	書名	指導要領各項目について重視した点		
		(1)情報の活用と表現		
		ア 情報とメディアの特徴	イ 情報のデジタル化	ウ 情報の表現・伝達の工夫
東京書籍株式会社	社会と情報	メディアリテラシーについては、ニュースの放送順を決め、発信者の意図について考えさせる実習を用意した(36ページ「メディアの現実とは何だろう」)。	写真の解像度や色数を変えてデータ量の変化を見る実習(16ページ「データ量を体験してみよう」)などをとおして、実際に役立つ知識と技術を習得できるようにした。	読み上げられた文章を整理して分かりやすく表現する実習(38ページ「図解表現をしよう」)などを用意し、情報の表現と伝達について体験的に理解できるようにした。
実教出版株式会社	最新社会と情報	メディアという言葉の多様性について、誤解をしないように、また使い分けができるように、丁寧な解説を心がけ、例題や問題などを豊富に掲載して、学んだことを再確認できるようにした。	単なるデジタル化の知識にとどまらず、実際にコンピュータを操作したときに具現化する事象と関連づけた例題を用意し、その理解を促すような工夫をした。	各種アプリケーションソフトを利用することと一緒に表現技法を学べるようにした。デザインの理論については本文中や口絵で紹介し、グラフに関しては、表計算ソフトの中で一般論として取り上げた。
実教出版株式会社	高校社会と情報	メディアについて、その学習の主旨にしたがい3項目に分類した。また、メディアリテラシーについては、広告を例に受け取る側面と、メディアを選択することで発信する側面との両面を取り上げた。	デジタル化のさまざまな側面に関して整理し各項目に分類した。また、それら知識を確認するための計算問題だけをまとめて取り扱った項目を用意して、その理解について確認ができるようにした。	表現については、視覚的な部分に加え、誤解のない表現や論文と感想文の違いなど、言語的な部分を取り上げるようにした。また口絵で視覚的な内容をまとめて紹介した。
開隆堂出版株式会社	社会と情報	メディアについて学ぶページでは、日常生活を通して身近なメディアについて気づき、メディアが果たしているさまざまな役割について理解できるような仕組み方をしました。	情報をデジタル化する流れとデジタル化することの特徴を、図を用いてコンパクトにかつ分かりやすく解説しました。	プレゼンテーションの計画から実施改善をする実習を通して、情報を分かりやすく表現し伝達する方法をまとめ、適切な手段を身につけられるようにしました。
数研出版株式会社	高等学校 社会と情報	メディアの特徴、情報とは何か、情報の信頼性と検証について扱い、クロスチェックの重要性を強調した。サーチエンジンの使い方も詳しく扱った。	アナログとデジタルの違いを対比して、デジタル化のメリットを明確にした。2進数、コンピュータのしくみ、デジタル化の原理も詳しく扱った。	情報発信のメディアの特徴、発信時の注意点を扱った。表現の工夫の具体例をあげ、プレゼンテーションについて、詳しく扱った。
日本文教出版株式会社	社会と情報	情報に価値があること、物とは違った取り扱いのルールがあること、情報の信憑性を検討するための視点を示しました。また、メディアをよりよく活用できるように、その機能や特性を丁寧に解説しました。	アナログとデジタル、2進法、文字・音・画像・動画のデジタル化については、基本的な仕組みを簡潔にわかりやすく解説し、実習ではデータの取り扱いの基礎を習得できるように意識しました。	情報の表現と伝達では、「伝える目的」「伝える相手(ターゲット)」を考慮した「情報デザイン」が重要であることを説明し、広告分析やポスター制作における企画書の作成等を題材とした展開で単元を構成しました。
日本文教出版株式会社	見てわかる社会と情報	情報の特徴やメディアの意味をより具体的に捉えやすくするため、「もの」との比較から違いを整理し、実際に「メディア」という言葉がどのような意味で用いられているかを図で解説しました。	第1章1節では実習に必要な基礎的な知識であるコンピュータのしくみやファイルサイズ、ファイル形式などを扱い、第4章2節で情報のデジタル化の原理を図やイラストでわかりやすく説明しています。	プレゼンテーションを想定し、図解、色彩の印象など、資料ページなども含め詳しく取り扱っています。また、発表と評価についても具体的に示し、情報をわかりやすく表現し対象に伝える力が身につけられます。
第一学習社	高等学校 社会と情報	具体例を示すことで、特徴や問題点を理解できるようにすること。	必要に応じて問や簡単な実習を設け、確実に理解できるようにすること。	グラフの表現や統計値によって、印象が変わって行くことを強く意識できるようにすること。

社名	書名	指導要領各項目について重視した点		
		(2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション		
		ア コミュニケーション手段の発達	イ 情報通信ネットワークの仕組み	ウ 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション
東京書籍株式会社	社会と情報	メディアの変遷については、口絵③④でその時代背景とともに写真を中心に展開し、情報通信技術の進展がコミュニケーションの形態に影響を及ぼしてきたことが理解できるようにした。	情報通信ネットワークの利便性を理解するため、パケット交換の通信方式が災害時に有効であった例などを取り上げた(85ページ「回線交換とパケット交換」)。	簡易版ウィキペディアの作成(42ページ「Web版用語辞典を作ろう」)などの活動をとおして、情報発信時に配慮すべき事項が理解できるようにした。
実教出版株式会社	最新社会と情報	コミュニケーション手段の発達については、口絵と本文で年表形式で取り上げ、視覚的にその流れが理解しやすいような工夫をした。	ネットワークの仕組みについては、図解を利用した例題を多く取り上げたり、コンピュータを実際に操作する実習を扱ったりするなど、理論と実践の両側面を意識した構成とした。	コミュニケーションについては、最初に一般論を示してからインターネットのサービスを中心としたコミュニケーション手段の説明をするようにした。またモラル面にも触れるようにした。
実教出版株式会社	高校社会と情報	コミュニケーション手段の発達については、口絵で年表形式で取り上げ、視覚的にその流れが理解しやすいような工夫をした。	ネットワークの仕組みについては、図解を利用した例題を多く取り上げたり、コンピュータを実際に操作する実習を扱ったりするなど、理論と実践の両側面を意識した構成とした。	コミュニケーションについては、一般論を示してからメールを例にして説明した。そのほかインターネットのサービスであるコミュニケーション手段については、モラルの面を中心に別項目で取り上げた。
開隆堂出版株式会社	社会と情報	適切な情報通信ネットワークを選択するために理解しておきたい通信サービスの特徴を見開きの表にまとめ、見やすく比較しやすいようにしました。	情報社会を支えるネットワーク技術について、基礎・基本を順序立てて学べるように展開し、ネットワーク社会に参画する際の技術力を養えるようにしました。	生徒にとって身近に感じられる例題を通して、適切な情報通信ネットワークを選択し効果的なコミュニケーションを行う能力が身に付くように配慮しました。
数研出版株式会社	高等学校 社会と情報	通信・マスコミの発達の歴史を詳しく扱った。ユビキタスネットワーク、Twitter、ジオタグ、Wi-Fiなど最新のコミュニケーションも扱った。	通信プロトコルの階層とパケット通信における各階層での処理を図解して表現した。また、パケット通信のパケットの流れとルータとの関係も図解した。	インターネットの特性を簡潔にまとめ、ブログ・Twitter・SNS、インターネットカメラ、動画投稿サイトを活用する注意点を具体的に示した。
日本文教出版株式会社	社会と情報	コミュニケーション手段の発達を追うとともに、こうした変化に対応していくための素養としての「メディア・リテラシー」についても踏み込んだ説明をしています。	社会にはりめぐらされた情報通信ネットワークを概観し、各種のしくみについては、基本的な内容を簡潔にわかりやすく解説しました。関連してセキュリティについては利用者の視点から基礎的な内容を押さえています。	メールやWWW等の基礎的な内容とともに、ブログ、Twitter、ウィキ、SNSなどの新しいコミュニケーションサービスについても、それぞれの特性や注意点を十分に踏まえた活用方法を示しています。
日本文教出版株式会社	見てわかる社会と情報	コミュニケーション手段を、社会・個人への情報伝達、同期的・非同期的といった特徴から整理しました。身近なコミュニケーション手段を分析することで、コミュニケーションに関する理解を深めることができます。	生徒にとってブラックボックスでもある情報通信ネットワークのしくみも、図やイラストで視覚的に説明することで、科学的な理解につなげます。また、実習ではカードを用いてパケット通信の原理を体感できます。	適切なメディアを選択することや日常的に使っているコミュニケーション手段の問題点、マナーなどにも触れており、情報モラルを意識しながら、情報通信ネットワークを積極的に活用していく力を身につけられます。
第一学習社	高等学校 社会と情報	興味を喚起できるよう、具体例をできるだけ多く取り上げること。	必要に応じて問や簡単な実習を設け、確実に理解できるようにすること。	誤った情報を利用せず、発信しないことを強く意識できるようにすること。発信のときには、意図通り伝わることを第一に考えることを強く意識できるようにすること。

社名	書名	指導要領各項目について重視した点		
		(3) 情報社会の課題と情報モラル		
		ア 情報化が社会に及ぼす影響と課題	イ 情報セキュリティの確保	ウ 情報社会における法と個人の責任
東京書籍株式会社	社会と情報	情報モラルについては、座学(102～107ページ)で丁寧に解説するとともに、情報モラルを題材にした三つ折りパンフレットの作成(54ページ「パンフレットを作ろう」)などの実習も用意した。	セキュリティについては、高校生が対処できる方策としてパスワードを重視し、管理の仕方やよいパスワードの作り方などを具体的に示した(108ページ「セキュリティ」)。	著作権については、基本的事項の解説のほか、クリエイティブコモンズといった著作者の意思表示についても触れた。また、実習も用意した(46ページ「電子透かしを体験してみよう」)。
実教出版株式会社	最新社会と情報	情報社会については、本書で取り上げる全ての内容に通ずることなので、まず概論として1章の最初で説明し、課題については、問題解決として最後の章で取り上げるようにした。	セキュリティについては、ネットワークを中心とした例を用いて説明した。個人で行う対策については、1章で取り上げ、インターネットを利用する際の注意事項を早い段階から意識できるようにした。	著作権については、例外規定や、著作物の利用手続きに触れるなど、従来の「～してはいけない」などと内容から、一歩踏み込んだ部分についても取り上げた。
実教出版株式会社	高校社会と情報	情報社会については、本書で取り上げる全ての内容に通ずることなので、まず概論として1章の最初で説明し、課題については、問題解決として最後の章で取り上げるようにした。	セキュリティのうち暗号化については、科学的な側面にも踏み込み、RSA暗号の手法について、一般論と具体的な小さな数値を用いた例題とで説明して、理解を深めるような工夫をした。	著作権については、例外規定や、著作物の利用手続きに触れるなど、従来の「～してはいけない」などと内容から、一歩踏み込んだ部分についても取り上げた。
開隆堂出版株式会社	社会と情報	情報化の進展による影響と課題について、統計資料などを用いることで根拠をもって理解できるようにしました。また、身近な事例を通して情報化の課題について理解を深められるようにした。	情報セキュリティを確保するための方法を、実社会で使われている例を通して学べるようにしています。また、実習を通して個人レベルでの情報セキュリティの確保について考えられるようにしています。	情報社会を支えるさまざまな法について、見開きの図を用いて確認できるようにしています。また、各々の方や権利については図や表を用いてわかりやすくまとめています。
数研出版株式会社	高等学校 社会と情報	サイバー犯罪、情報格差、心身への影響、ネットラブル・詐欺、ウイルスなど、情報社会の問題点を具体的にとりあげ、詳しく扱った。	ユーザ認証、パスワードの作り方、暗号、情報の流失など、情報セキュリティを詳しく扱った。特に、最近の情報の流出とセキュリティ対策に頁をさいた。	情報技術の発達により、著作権や個人情報の流出が身近な問題になったことを示し、なぜ著作権・個人情報・プライバシー権などを尊重する必要があるか理解させるようにした。
日本文教出版株式会社	社会と情報	情報社会の光と影の対応については、討議する学習での活用を想定した「視点・論点」を設け、異なる意見や価値観の間でいかにバランスを取ればよいかを主体的に考えられる場面を用意しています。	サイバー犯罪にまきこまれないようにする方法を踏まえた上で、加害者になってしまわないように注意を促す内容も合わせて示しました。技術的なセキュリティ対策の手段やその仕組みも十分に取扱いしています。	知的財産権については、どのような授業アプローチにも柔軟に対応できるよう、解説を充実させました。個人情報やプライバシーについては、個人情報の活用と保護のバランスにも配慮した解説をしています。
日本文教出版株式会社	見てわかる社会と情報	情報化が社会に及ぼす影響については具体的な事例を取り上げ、イラストや図で示しました。また、サイバー犯罪の注意点やチェックリストなどを提示し、自分自身の普段の行動を振り返られるようにしています。	(3)アの学習をふまえ、社会で情報セキュリティを高めるために用いられている技術や方法について、原理も含めて解説しています。個人での対策、組織での対策、情報セキュリティ技術を図で理解できます。	法律や権利について具体例を用いて解説し、個人情報の管理や情報を発信する際に気をつけるポイントなどを示すことで、法律の趣旨を理解し、責任ある個人として情報社会に参画する態度を育てます。
第一学習社	高等学校 社会と情報	普遍的な内容になるよう、流行のキーワードに流されないようにすること。光の面と陰の面とをきちんと区別して理解できるようにすること。	必要に応じて問や簡単な実習を設け、確実に理解できるようにすること。	具体的な事例を設定し、それについて考えられる活動(ケーススタディ)をおこなえるようにすること。

社名	書名	指導要領各項目について重視した点		
		(4) 望ましい情報社会の構築		
		ア 社会における情報システム	イ 情報システムと人間	ウ 情報社会における問題の解決
東京書籍株式会社	社会と情報	3Dの原理としてステレオグラムの写真(120ページ)やネット利用規約のコラム(118ページ)、QRコードを作成する実習(34ページ「QRコードを作ろう」)など、高校生にとって身近な例を掲載した。	情報システムの信頼性については、小惑星探査機はやぶさを取り上げた(124ページ「宇宙での障害対策」)。また、チェックディジットの計算方法を示し、実際に計算できるようにした(125ページ)。	問題解決においては、基本的な考え方とともに、震災時の帰宅経路を考える例を取り上げた(128ページ)。また、プレーンストーミングやKJ法を使った実習を用意した(48ページ「身近な問題を解決しよう」)。
実教出版株式会社	最新社会と情報	切符などの予約やポストレジなど、生徒にとっても身近な社会システムの例を取り上げ、商品(もの)の流れと情報の流れをそれぞれ比較できるような形で取り上げた。	バリアフリーやユニバーサルデザインといった現在実現している利用者を配慮した側面について取り上げた。また、実例として見分けにくい色の例を挙げ、(1)ウに関連する内容にも触れた。	問題解決については、表計算ソフトを利用する統計的な手法を取り上げた。その他アイデアを構造化する手法やテキストマイニングなどを紹介した。
実教出版株式会社	高校社会と情報	高度道路交通システムやポストレジなど、身近な社会システムの例を取り上げ、現在の社会システムにコンピュータが必要不可欠であることを意識できるように工夫をした。	バリアフリーやユニバーサルデザインといった現在実現している利用者を配慮した側面について取り上げ、合意形成やクラウドコンピューティングについてもそれぞれ項目を立てて扱った。	問題解決については、表計算ソフトを利用したり統計的な手法を取り上げたりしたほか、グラフの読み取り・作成についての演習や情報表現に関連した内容を取り上げた。
開隆堂出版株式会社	社会と情報	情報システムがもたらす恩恵と問題点をそれぞれを見開きの大きな図で示すことで、視覚的に理解できるようにしました。	これからの社会で求められる情報システムのあり方について、利用のしやすさと安全性の観点からコンパクトにまとめた。	問題の発見から解決のまでの手順を実習例を通して丁寧に解説することで、問題解決能力を無理なく身につけられるようにしました。
数研出版株式会社	高等学校 社会と情報	クラウドコンピューティング、ユビキタスコンピューティング、緊急地震速報など、最新の情報通信技術のしくみと影響を具体的に示した。	ユーザビリティ・アクセシビリティ、バリアフリー、ユニバーサルデザインを重視した。	問題解決の学習では、テニス部での実践的な具体例を取り上げ、日常生活の様々な場面でも応用できるように留意した。
日本文教出版株式会社	社会と情報	情報システムの働きについては、普段の購買情報がさまざまな情報と関連づけられて活用されている様子などを導入として用い、交通、防災、医療、教育など多岐にわたる例をイラストとともに解説しています。	人にとって利用しやすい情報システムを考える際の概念や具体的な工夫の例として、ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、ユビキタスコンピューティング、ユーザインタフェースなどを取り上げています。	各章末に配置した「アカデミックスキルズ」に取り組むことで、終章の問題解決で活用できる力を身につけることができるよう配列を工夫しました。高校生が実際に行った問題解決の事例も紹介しています。
日本文教出版株式会社	見てわかる社会と情報	情報社会を支えている情報システムの事例について、豊富なイラストや写真を使って解説しています。いずれも生徒にとって身近なものや実際によく利用しているサービスを中心に扱っています。	(4)アの学習をふまえ、人間にとって安全で使いやすい情報システムについて、具体例を豊富な写真やイラストで示しました。未来の情報機器を考案する実習を通して、情報システムの在り方について考えを深めます。	問題解決では、実際に生徒が学校生活で活用できるよう、文化祭の出し物を例に、表計算ソフトウェアを用いたデータの分析の方法を示しました。問題の解決策を提案できる力を身につけます。
第一学習社	高等学校 社会と情報	普遍的な内容になるよう、流行のキーワードに流されないようにすること。光の面と陰の面とをきちんと区別して理解できるようにすること。	普遍的な内容になるよう、流行のキーワードに流されないようにすること。光の面と陰の面とをきちんと区別して理解できるようにすること。	「職業を決める」という問題を設定し、具体的な活動を通じて理解できるようにすること。

情報の科学

社名	書名	教科書の記号	発行者の番号	教科書のページ数	指導要領各項目ごとのページ数(指導要領のアイウレベルと巻末資料等)												
					(1)コンピュータと情報通信ネットワーク			(2)問題解決とコンピュータの活用			(3)情報の管理と問題解決			(4)情報技術の進展と情報モラル			巻末
					ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	
東京書籍	情報の科学	情科301	2東書	170	34	5	8	22	16	16	14	10	3	10	9	16	24
実教出版株式会社	最新情報の科学	情科302	7実教	190	40	14	6	17	24	26	15	24	29	14	13	11	
実教出版株式会社	情報の科学	情科303	7実教	190	40	16	6	12	35	25	7	23	10	11	27	10	
数研出版株式会社	高等学校 情報の科学	情科304	104数研	184	28	26	10	4	4	5	14	9	4	8	12	10	28
日本文教出版株式会社	情報の科学	情科305	116日文	176	28	19	6	19	11	13	4	8	2	10	4	6	21

社名	書名	実習と座学の割合% (想定授業時間数で)		指導要領各項目について実習と座学の割合%																							
				(1)コンピュータと情報通信ネットワーク						(2)問題解決とコンピュータの活用						(3)情報の管理と問題解決						(4)情報技術の進展と情報モラル					
				ア		イ		ウ		ア		イ		ウ		ア		イ		ウ		ア		イ		ウ	
				実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学	実習	座学
東京書籍	情報の科学	40%	60%	41%	59%	20%	80%	25%	75%	73%	27%	38%	63%	50%	50%	71%	29%	40%	60%	33%	67%	20%	80%	11%	89%	25%	75%
実教出版株式会社	最新情報の科学	60%	40%																								
実教出版株式会社	情報の科学	60%	40%																								
数研出版株式会社	高等学校 情報の科学	20%	80%	20%	80%	15%	85%	0%	###	20%	80%	50%	50%	20%	80%	10%	90%	40%	60%	35%	65%	25%	75%	20%	80%	15%	85%
日本文教出版株式会社	情報の科学	52%	48%	30%	70%	20%	80%	20%	80%	50%	50%	70%	30%	70%	30%	70%	30%	20%	80%	60%	40%	20%	80%	20%	80%	60%	40%

社名	書名	本文中の写真点数、イラスト点数、図の数、表の数、グラフの数					本文中の注釈数	索引項目数	解説用語数	他教科との連携について	編集にあたって工夫した点、特徴等
		写真	イラスト	図	表	グラフ					
東京書籍	情報の科学	77	258	210	73	49	407	320	197	<p>数学Ⅰ (4)ア 箱ひげ図(145ページ) 現代社会(2)エ 内容の取扱い「情報の分析」(78ページ) 国語総合 A(1) プレゼンテーション(34ページ) 家庭基礎 (2)エ 電子商取引(103ページ)、「ICチップの構造とさまざまな利用」(口絵③④)</p>	授業に合わせて教科書の内容を選択できるよう、実習と理論のページを分けた。実習は1時間で完結するものと6時間程度のものを用意した。基本的内容や重要事項は、繰り返し扱うことを想定して資料編にまとめた。
実教出版株式会社	最新情報の科学	44	238	—	71	0	217	284	356	<p>数学科, 公民科, 理科, 国語科</p>	例題や問題が豊富であり、例題により手順等を解説しているといった難しい内容も無理なく学べるような工夫をしました。スキルにばらつきが予想される表計算ソフトについては、取り扱いを丁寧にしました。リファレンス的に使える資料を巻末に掲載しました。
実教出版株式会社	情報の科学	30	273	—	50	0	207	219	264	<p>数学科, 公民科, 理科, 国語科</p>	ホップ(体験的な実習)、ステップ(理論)、ジャンプ(応用的な実習)の3編構成になっているため、学習到達度の設定と、授業に合わせて座学と実習の選択を可能にしました。スキルにばらつきが予想される表計算ソフトについては、取り扱いを丁寧にしました。
数研出版株式会社	高等学校 情報の科学	256	172	127	43	9	354	388	65	<p>数学科との関連として、2進数と10進数の変換(1編3章A節)を取り上げた。 また、理科との関連として、シミュレーションの題材に斜方投射(3編2章B節)を取り上げた。</p>	できるだけ身近な最新の事例を取り上げ、興味を持続して学習できるようにした。また、適所で実習を取り入れ、知識や技術の整理・確認をしながら、実践力や応用力を養えるようにした。
日本文教出版株式会社	情報の科学	45	184	158	39	17	477	349	280	<p>数学科で扱いが大きくなった統計の内容を具体的に活用する場面を問題解決編に置いています。「情報」からの視点で公民的な素養を育てる場面としては、知的財産権等の法律の扱いがあります。その他、プレゼンテーションやレポートの技法、各種の発想法やロジックツリーなどのシンキングツールは他教科や総合的な学習の時間でも重視される言語活動の充実において欠かすことのできないものになっています。</p>	知識・理解に重点を置いた「ネットワーク編」と、実習に重点を置いた「問題解決編」の2編構成とし、柔軟な活用ができる教科書としました。新しい学習内容を積極的に取り入れた資料性の高い教科書です。

社名	書名	指導要領各項目について重視した点		
		(1) コンピュータと情報通信ネットワーク		
		ア コンピュータと情報の処理	イ 情報通信ネットワークの仕組み	ウ 情報システムの働きと提供するサービス
東京書籍	情報の科学	デジタルデータの基本的な解説のほかに、データ量の計算方法も解説した(43ページなど)。動画像の原理は、未来少年コナンのアニメーション画像を使って解説した(44ページ)。	情報通信ネットワークについては、TCP/IP参照モデルやIPアドレスの枯渇など、やや深い内容も扱った(57ページ)。また、パケット通信を体験する実習を取り上げた(59ページ)。	情報システムとサービスについては、学習指導要領の(3)と関連付けて扱った。表計算ソフトを使ったPOSシステムの作成の実習を取り上げた(20ページ「小さなPOSシステムを作ろう」)。
実教出版株式会社	最新情報の科学	図形やイラストを用いるなどして、視覚的にデジタル化の理論の理解を促すような工夫をした。また、テーマ毎に確認問題を用意し、学習事項の理解度を確かめることができるようにした。	情報Bと比べたとき情報の科学で初めて取り上げられた分野であるため、社会と情報(情報C)と同様な丁寧な解説を心がけた。	切符などの予約やポスレジなど、身近な情報システムの例を取り上げ、そこで扱われている情報と、それに伴う危険性やセキュリティの大切さを意識できるようにした。
実教出版株式会社	情報の科学	コンピュータを直接意識しないで概念を理解できるようなアンプラグド的な手法で題材を取り上げ、初学者にも無理なくデジタル化の仕組みを学べるようにした。	ネットワークを直接意識しないで概念を理解できるようなアンプラグドのような題材を取り上げ、初学者にも無理なくデジタル化の仕組みを学べるようにした。	HOP編では、情報システムの中の、情報の流れと商品(もの)の流れとを比較できるような形で取り上げた。STEP編では、知識的な内容を主に取り上げるようにした。
数研出版株式会社	高等学校 情報の科学	アナログとデジタルの違いを対比して、デジタル化のメリットを明確にした。2進数、コンピュータのしくみ、デジタル化の原理も詳しく扱った。	通信プロトコルの階層とパケット通信における各階層での処理を図解して表現した。また、パケット通信のパケットの流れとルータとの関係も図解した。	クラウドコンピューティング、ユビキタスコンピューティング、緊急地震速報など、最新の情報通信技術を取り上げ、そのしくみやその影響を具体的に示した。
日本文教出版株式会社	情報の科学	実体を捉えづらいデジタルの特性・概念を、多彩な図版を用いてビジュアル化し「情報の科学的な理解」を促すよう配慮しました。	情報通信ネットワークや、それを支える技術の仕組み・概念を豊富な図版を用いて解説しています。図解においては、システムを俯瞰するだけでなく、「流れ」もわかりやすく図解するように配慮しました。	学習指導要領に記載された多様なサービスの基本的な仕組みを解説しています。生徒になじみの深いPOSシステムを大きく扱うなど、生徒の理解に則して題材のバランスに配慮しました。

社名	書名	指導要領各項目について重視した点		
		(2)問題解決とコンピュータの活用		
		ア 問題解決の基本的考え方	イ 問題解決と処理手順の自動化	ウ モデル化とシミュレーション
東京書籍	情報の科学	問題解決においては、基本的な考え方を示すとともに、ブレンストーミングやブレンライティング、KJ法について解説した(81ページ)。	アルゴリズムとプログラミングについては、教育用プログラム言語「ドリトル」を用いて理解を深めるようにした(14ページ「コンピュータに命令してみよう」ほか)。	地震が発生して交通機関が止まっても安全に帰宅できる経路を考える実習(26ページ「災害時の帰宅モデルを考えよう」)など、生活に根差した題材を取り上げた。
実教出版株式会社	最新情報の科学	問題解決の手法として、ブレンストーミングやKJ法を取り上げた。また、表計算ソフトを利用したグラフの分析や統計処理等を扱った。	アルゴリズムについてはフローチャートを用いて説明した。自動実行についてはVBAを用い、文字列の探索や並べ替えについても扱うと共に、表計算ソフトの各機能との関連について触れた。	シミュレーションを行い、結果をみるだけでなく、モデル化の考え方や、問題解決における有効性についても取り上げた。また、表計算ソフトによるモンテカルロ法のシミュレーションなど実践的な例題を扱った。
実教出版株式会社	情報の科学	問題解決の基本的な考え方については、理論的な内容をSTEP編で取り上げた。また、情報検索といった中学校に移行した学習内容についても取り上げた。	全編をとおしてアルゴリズムとプログラミングの理解と体得に数独(パズル)の自動解法処理を取り上げ、初学者が興味を持って取り組めるように工夫した。	シミュレーションについては、アンプラグド的なものや表計算ソフトを利用するものなどを扱った。題材としては、身近で実際に利用でき、興味を持つようなものを中心に取り上げた。
数研出版株式会社	高等学校 情報の科学	問題解決の学習では、テニス部での実践的な具体例を取り上げ、日常生活の様々な場面でも応用できるように留意した。	アルゴリズムの重要性とプログラミングにおける曖昧さの排除を重視した。	シミュレーションの定義と例を示し、紙上で斜方投射と待ち行列のシミュレーションを行った。
日本文教出版株式会社	情報の科学	「よい問題解決」と「やみくもな問題解決」とをイラストを用いて対比することで、「問題解決」の意義をしっかりと伝え、生徒の関心を高められるようにしています。	順次処理、判断分岐、繰り返しなどの基本的なアルゴリズムをフローチャートで示し、それをJavaScriptで実行しながら理解を深めることのできる構成になっています。	例題においては、生徒に身近な事例を取り上げ、かつ、アプリケーションを用いるものと用いないものとをバランスよく配置し、取り組みやすい内容・構成にしました。

社名	書名	指導要領各項目について重視した点		
		(3)情報の管理と問題解決		
		ア 情報通信ネットワークと問題解決	イ 情報の蓄積・管理とデータベース	ウ 問題解決の評価と改善
東京書籍	情報の科学	問題解決における情報通信ネットワークの活用方法として、情報検索の基本実習を用意した(18ページ「情報を検索しよう」)。	データベースについては、図書室の貸出データを使い、段階を踏んだ実習を用意した(22ページ「データベースを使ってみよう」、132ページ「データベースで問題解決をしよう」)。	問題解決の評価については、PDCAサイクルを取り上げた。また、電車の経路探索を例に、運賃や所要時間など優先順位を決めて解決策を評価する手法を示した(83ページ)。
実教出版株式会社	最新情報の科学	ネットワークを利用した問題解決については、インターネットのサービスを利用した情報の収集や、さまざまな情報の共有方法について、一般論と例題を用いて説明した。	データベースに関する実習については、表計算ソフトとデータベースソフトのどちらでもできるような例題を用意し、授業の負担を軽減できるように工夫した。	問題解決の評価と改善については、(2)アの内容と一緒に扱い、問題解決全体の流れを把握しやすくするように工夫した。
実教出版株式会社	情報の科学	ネットワークを利用した問題解決については、インターネットのサービスを利用した情報検索やアンケート調査などについて取り上げ、データを扱いやすいように、効率よく収集する方法について扱った。	データベースに関する実習については、表計算ソフトで行える題材を用意した。HOP編のほかに、平易な題材を取り上げながらも概念理解の難易度を配慮した実習をJUMP編で扱った。	問題解決の評価と改善については、(2)アの内容と一緒に扱い、問題解決全体の流れを把握しやすくするように工夫した。
数研出版株式会社	高等学校 情報の科学	メディアの特徴、情報とは何か、情報の信頼性と検証について扱い、クロスチェックの重要性を強調した。サーチエンジンの使い方も詳しく扱った。	データベースの構造・正規化・演算・ソートなどを丁寧に扱い、データベースの管理と安全性を詳しく扱った。	PDCA、ブレインストーミング、モデル化、問題の明確化(定式化)を重視した。
日本文教出版株式会社	情報の科学	生徒が自ら思考・判断して積極的に関わることのできる題材を置きました。「環境問題」という社会的関心・意義の高いテーマと、これまでの学習を活かすことのできるWebサイト制作という2テーマを配しました。	生徒がデータベースを身近に感じられるよう、コンビニエンスストアなど生活に密着した題材を軸に記述しました。要点をコンパクトにまとめ、関心を抱きやすく、理解しやすい内容を心がけました。	全部で4つのテーマを設け、取り組みやすいテーマを選択できるように配慮しました。それぞれ「課題の設定」から「発表・評価」までの大まかな道筋を示し、生徒たちが円滑に進められる内容を心がけました。

社名	書名	指導要領各項目について重視した点		
		(4)情報技術の進展と情報モラル		
		ア 社会の情報化と人間	イ 情報社会の安全と情報技術	ウ 社会の情報化と人間
東京書籍	情報の科学	情報機器の操作性の向上には、認知科学や人間工学の研究成果が活かされていることが具体的に分かるよう、らくらくフォンやiPadの写真を掲載した(106～107ページ)。	高校生が対処できる方策として、データのバックアップや迷惑メールフィルタ、セキュリティアップデートなどについて取り上げた(108～111ページ)。	SNSやツイッターについて取り上げ、多様なコミュニケーションについて解説するとともに、反社会的なコミュニティについても記載し、注意を促した(117ページ「自殺サイト・家出サイト」)。
実教出版株式会社	最新情報の科学	GPS携帯端末など身近な情報技術による生活の変化や、人に配慮したインタフェースなど、人と社会の関係を意識させるようにした。著作権に関しては、例外規定や著作物の利用手続きなど踏み込んだ内容も取り上げた。	情報社会の安全性については、身近に起こりえるものなので、本の冒頭で概略を取り上げ、具体的なセキュリティ対策などについては、(1)ウの個人情報の取り扱いなどとまとめて扱った。	情報社会の発展と情報技術については、インターネットコミュニケーションツールを中心に紹介した。また、生活に及ぼしている影響と問題点について取り上げ、どのように対処すればよいかについて扱った。
実教出版株式会社	情報の科学	電子タグなど身近な情報技術による生活の変化や、人に配慮したインタフェースなど、人と社会の関係を意識させるようにした。著作権に関しては、引用による著作物の利用など身近な内容についても取り上げた。	情報社会での安全性については、利用者が行うことと管理者に確認・連絡することというように、利用者がどうすればよいかという視点で解説した。	情報社会の発展と情報技術については、冒頭でインターネットコミュニケーションツールを中心に紹介し、それらが生活に及ぼしている影響や利用する際の注意点などについて扱った。
数研出版株式会社	高等学校 情報の科学	情報社会の光と影を、最新の具体例をあげて、丁寧に解説した。情報モラル・著作権も詳しく説明した。	ユーザ認証、パスワードの作り方、暗号、情報の流失など、情報セキュリティを具体的に詳しく扱った。特に、近年問題になっている情報の流出とセキュリティ対策に頁をさいた。	クラウドコンピューティング、ユビキタスコンピューティング、緊急地震速報など、最新の情報通信技術を取り上げ、そのしくみやその影響を具体的に示した。
日本文教出版株式会社	情報の科学	知的財産権や個人情報保護法、不正アクセス禁止法など、情報社会に関連する法律についても、詳細に解説しました。「情報の科学」においても「情報社会に参画する態度」を育むことができるよう配慮しています。	技術的な側面だけでなく、(4)アと同様、「情報社会に参画する態度」も意識しました。サイバー犯罪の多様な手口も具体例をあげて解説し、それぞれの特性を理解しやすい説明となるよう留意しました。	情報技術の進展を概観するとともに、特にオンラインコミュニティを活用したコラボレーションを行うための各種の基本的な注意点や情報モラルに関する題材を教科書の前半で扱っています。